

第 2 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 6 月 13 日(火) 13:30～15:50	
開催場所	薩摩川内市役所 601会議室	
出席者	委員	外菌会長、仙波副会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員、白男川委員
	事務局	行政改革推進課長、同課長代理、同課職員
	傍聴者	なし

□会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 補助金等評価	
(1) 日本水難救済会救難所の組織の運営と補償に対する補助金	防災安全課
(2) 甑島ツーリズム推進協議会運営補助金	甑はひとつ推進室
(3) 衛生自治団体連合会運営補助金	環境課
(4) 快適環境づくり補助金	環境課
3 閉会	

□議事

1 開会

○会長

(挨拶)

2 補助金等評価

(1) 日本水難救済会救難所の組織の運営と補償に対する補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 5救難所ごとの会員数は。

●**主管課** 28年度実績は、川内救難所が112名、里救難所が57名、上甑救難所が101名、下甑救難所が215名、鹿島救難所が70名の合計555名である。船舶を所有している漁協の組合員が中心で組合員の約半数が所員となっている状況である。

○委員 海難救助活動を行った実績はあるか。

●**主管課** 平成28年度は川内地域で1件

あった。平成27、26年度も各1件あった。

○委員 成果指標の救難所会員数の目標値が600名となっている。その根拠は。

●**主管課** 救難所ごとに目標人数を設定し、積み上げた数値である。

○委員 所管課として現時点で目標に達しているかと判断しているか。

●**主管課** 基本的には救難活動はボランティア活動の一環と認識しているので、多いとか少ないとかは言えない。しかしながら、今後も、支所や漁協でPR活動を行い、救難所員の拡大に取り組んでいきたい。

○委員 海難救助活動を行った場合はすべてボランティアで、本人に支払われるものは何もないのか。

●**主管課** 救難所から出る謝礼金はないが、

県水難救済会から報酬が出ている。

- 委員 海難救助活動は危険が伴うものなので、協力いただいている方には頭が下がる。今後も継続をお願いしたい。
- 委員 万が一に備え、訓練を実施しないといけない。訓練の実施状況は。
- 主管課 甑地域では4年に1回は支部ごとに訓練を実施している。川内地域では川内港で串木野海上保安本部と合同で訓練を実施している。
- 委員 訓練の実施を強く要望する。
- 委員 一点目は、収支精算書に筆記用具等でチェックした痕があるが、何か問題があったのか。二点目は、平成26年度から平成27年度にかけて事業費の支出額が減少した理由は何か。
- 主管課 一点目の質問は、補助金を交付する際の内容精査作業の痕跡であり、特に問題があったのではない。二点目の質問は、制度変更によるもので、日本水難救済会の年会費が120円に、救助員の災害共済保険料が500円になったためである。

(まとめ)

- 会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 委員 万が一の海難事故に備えるため、訓練を実施することが必要である。日頃からあらゆる事態を想定しておくことが今の時代は必要である。訓練の実施を強く要望したい。
- 会長 まとめに記載したい。

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員 車両リース費等、毎年経費がかかるものなのかを補助金を交付する側として把握しておくべきではないか。
- 主管課 ご意見のあった車両リース費については、車両2台中1台は新聞報道等でもありました電気自動車実証実験で、甑島ツーリズム推進協議会にも1台借用することができた。来年度以降は経費が少なくなる見込みである。事務局が市にあるので、詳細を把握している。
- 委員 交流人口を増やし、奄美みたいになることが理想である。甑島全体が一体となることでエコツーリズムを実現していくことが大きな目的である。しかしながら、甑島では高齢化が進んでいる。若い漁師が定住しているケースも出てきており、将来に期待したい。観光を主軸として地域振興していくのは市としての責任である。
- 委員 補助金の視点別評価の中で評価が「B」となっているが理由はあるか。
- 主管課 継続していくには行政主導では長続きしない。島民主体が理想であるが、担っていく若者が少なく、人材不足の懸念もあるため、評価を「B」とした。
- 会長 協議会の構成員に若者はいるのか。
- 主管課 協議会委員はコミュニティ協議会等の各団体の長で年配者が多い。しかし、観光振興部会には地元の若者も多く所属している。
- 委員 各部会でイベント開催を積極的に行っているとのことである。イベントは部会ごとに実施しているのか。また、今後も継続していくイベントなのか。
- 主管課 中学生交流イベントは地域振興部会と教育推進部会の合同で、海岸漂流物清掃イベントは環境保全部会、恐竜化石体験ツアーは教育推進部会で実施している。平成28年度実施したもので、平成29年度以降も継続して実施していく予定である。
- 委員 甑島ツーリズム推進協議会の一番

2 補助金等評価

(2) 甑島ツーリズム推進協議会運営補助金

の成果は。

- 主管課** 甌島の方々が、自分のことと認識して、このままではいけない、自分たちでやろうと「意識の醸成」が図れたことが一番である。また、橋がかかると更に一体感の醸成が図れるのではと期待している。
- 委員** 甌島の観光客が増えたとのことであるが、具体的な数値はあるか。効果が知りたい。
- 主管課** 成果指標に入込客数の指標があり、平成27年度実績約7万人から平成28年度実績では約9万人と増加傾向にある。特に、日帰りの入込客が増えている。
- 委員** 各種イベントが開催される日には帰りの船が満席という日もある。甌島間だけでなく本土と甌島の中学生交流を開催することはできないか。
- 主管課** 市内の小学4年生を対象に甌島アイランドウォッチング事業があるので、中学生の交流は考えていない。
- 委員** 若い人が活躍できる場を協議会内でも作ってほしい。若い人だけ集めた部会を作ると意見が出やすいのでは。
- 主管課** 観光振興部会には商工・観光関係事業者が入っているので、若い方が集まる機会が多い。
- 委員** 4部会ごとの人数は。
- 主管課** 各部会20～30人前後である。ただし、観光振興部会は事業者が入っているので、人数は多くなっている。
- 委員** 収支精算書の支出の部の事務費、事業費の内訳をもらった後で評価することはできないか。
- 主管課** 収支精算書が補助金交付要綱上の様式で資料として不足している部分があり、申し訳ない。
- 委員** 収支精算書が大雑把すぎる。例えば、事務費や事業費の内訳を備考欄だけでは判断できないのでは。来年度以降、経費がどのようになるのか推移を見たい。
- 主管課** 平成29年7月4日に決算総会

を予定しており、総会后でよければ、内訳を記載した資料を提供したい。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 委員** 必要性の項目に人口減少、少子・高齢化対策の記載があり、補助金評価としては話が大きすぎる。補助金に直結している内容で必要性を評価すべき。
- 委員** 平成27年度に創設されてまだ2年目。軌道に乗るまでは市と協議会がうまく連携し、事業を展開できるように調整してほしい。
- 委員** 将来を見据え、若い人が活躍できる場を協議会内で作っていただきたい。
- 会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(3) 衛生自治団体連合会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員** 補助金交付の目的が環境衛生思想の普及であるか。
- 主管課** お見込のとおりである。
- 委員** 環境ごみの減量化についての取り組みはどのように行っているか。
- 主管課** 衛自連だよりを発行し、定期的にごみの減量化を市民に広報している。また、ホームページを通して、補助事業を紹介、様々なPR活動を通して、広報・周知を行っている。
- 委員** 特に量を減らす努力をしてほしい。エコバッグ配付もごみ減量のために実施しているのか。
- 主管課** お見込のとおりである。少しでも

少なくなるようマイバッグキャンペーンでエコバッグを配布している。

○委員 まちにごみを捨てないという環境衛生思想を広げることが大切である。まちで見かけるのぼり旗の設置は継続してほしい。

●主管課 のぼり旗以外にも不法投棄されやすい場所などに立て看板を設置している。地区コミ等からの要望も受け付けている。

○会長 収入の約200万円に対し、会議費が約半分で、特に旅費が多い。内容を具体的に説明してほしい。

●主管課 役員手当がないため、三役・役員等の会議への旅費が主なものである。役員の研修視察なども計上している。また、ごみの収益事業に係る特別会計の中には各種研修視察やのぼり旗作成等の事業がある。

○会長 事業費が会議費と比較して少ない。会議費もほとんどが旅費である。

○委員 県内どの自治体にもある組織なのか。

●主管課 全自治体にある組織である。

○委員 成果指標の加入世帯数3万2千世帯維持のための方策は。

●主管課 4万5千人世帯のうち自治会加入者が3万2千人である。市としては、現状を維持したい。転入等の異動の際に、自治会への加入促進を促すとともに、未加入世帯に対しても、説明を実施している。

○委員 成果指標の研修会開催数及び参加者数は年5回200人となっているが状況は。

●主管課 平成28年度の実績は8回開催で332人参加であった。予算の範囲内で実施していきたい。

○委員 地区コミにはのぼり旗を20本ぐらいもらっている。キャンペーン期間の7月1日から7日の間に主要幹線道路に設置する計画である。以前はごみ拾いをして

いたが、昨年からのぼり旗の設置となっている。効果はあるようなので、今後も継続してほしい。

●主管課 まちをきれいにすることが抑制になっていると感じている。のぼり旗や立て看板の設置などで工夫していきたい。

○委員 いまだにごみを不法投棄する人が多い。どうにかならないのか。

●主管課 たちごっこである。人のいないところに行くと不法投棄があるのが実情である。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○委員 経費の使い方について再考する必要がある。収入に対し、旅費が突出しており、バランスが悪い。事業に研修視察などは事業費で組むなど工夫すべき。

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(4) 快適環境づくり補助金

(事前質問なし)

●主管課 委員へ報告がある。花いっぱいまちづくり推進事業は市民にとっても好評である。既に平成29年度は募集を締め切った。今後、補正予算を組んで追加できないか検討している状況である。

○委員 花いっぴいのまちに本気でする気があるなら拡大すべきである。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価

について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 花いっぱいのにまに本気である気があるなら拡大すべきとの意見があった。

○委員 同感である。もっと力を入れるべきではないか。

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と異なり、「見直しの上で継続」で「拡大」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 まとめにも「見直しの上で継続」で「拡大」とした理由を記載したい。

3 閉会

○事務局

(挨拶)